



「みどりの学校ファーム」の取組



(1) 加須市立北川辺東小学校の取組について

<実践の概要>

- 学校農園の取組を通して、「生命の尊重」「科学的な見方・考え方」「勤労の理解と意欲向上」「地域との連携」「食育の推進」を育成している。
- 第3学年社会「農家の仕事」では、農家の仕事、作物を育てる、1年間の仕事の流れ等、児童が見えていなかった事象を、学校農園活動の体験を通して、見える化＝【学習】している。また、調理・収穫物の活用として、「収穫祭（豚汁づくり、餅つき、祖父母と会食、野菜販売体験等）」「やきいも集会」「いもづるでリースづくり」を実施している。
- 成果として、児童が豊かな体験ができ、地域の方との人間関係が深まった。職員は、学校ファームに関わる技術の習得ができ、不登校の予防にもつながった。

<Q&A>

- Q) JA 等関係機関との連携・協力はどのように行っているのか？
- A) JA には、種や苗等の準備やファーム管理上のアドバイスを受けている。
- Q) ファームまで移動の際の安全面の配慮事項は？
- A) 複数の教員やPTAから協力を得て、安全面の見届けを行っている。

(2) 杉戸町立杉戸第三小学校の取組について

<実践の概要>

- 食育と関連づけ、種まき、植え付けから育て、収穫した作物を、学年全員で食べるというところまでを一連の活動にして、年間計画に位置づけている。また、家庭や地域の協力を得ながら、「食」と「農」を取り上げ、発達段階に応じた体験活動を実施。
- 主な活動は、「野菜作り（1年：なす、2年：ミニトマト・サツマイモ、3年：大豆、4年：じゃがいも）」「梨作り（5年）」「米作り（6年）」であり、JA、杉戸町農業振興課、県立杉戸農業高校、学校応援団と連携・協力を図り、取組の充実を図っている。
- 学校ファームを通して、保護者や地域との連携が強化した。また、食育と関連させた教育活動により、子供たちの「食」や「農」に対する意識が向上した。

<Q&A>

- Q) 学年間の引継ぎをどのようにしているか？
- A) 年間指導計画に実施時期や注意事項を朱書きし、引き継いでいる。
小規模校なので、上の学年の姿がよく見え、自然と目標になっている。
- Q) 活動を通して、子供たちがどのように変容したか？
- A) ゲストティーチャーにお世話になる経験から、児童の心（感謝の心）が育っている。



【指導講評】 加須農林振興センター管理・農地担当、春日部農林振興センター地域支援担当

- <北川辺東小> 児童は、愛情を持って作物などを育てることを通じて大きな発見をしながら、より農業の大切さや農作物への理解が深まり、考える力、工夫する力、育てる喜び、忍耐力、生命の大切さを学び、「感謝の心」と「生きる力」を身につけている。
- <杉戸第三小> 地域、外部機関との連携により、単なる農業体験ではなく、農業により関心を持つようになってきている。また、食育と関連付けた取組が素晴らしく、子供たちにとって、魅力的な活動になっている。また、子供たちの情操の涵養によい影響を与える取組になっている。
- 現在100%の実施率をこれからも継続するためには、学校、行政、地域が三位一体となって、子供たちの農業体験活動を支援することが重要。更に充実させるために、収穫物の加工体験、販売体験等、体験の幅を広げる取組が重要である。